

JAMCA ジャムカ ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.29
2001年4月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会
協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大京町31
ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.gr.jp/>



IT革命と教育改革

広島工学院専門学校理事長
広島自動車整備専門学校理事長
全国自動車整備専門学校協会理事

古澤 敏昭

IT革命と称される現代の情報社会の中で、情報通信はすさまじく進展しています。世界水準に達するIT国家を5年間で目指すという言葉を感じるならば、起業家ベンチャービジネスの到来かと錯覚します。確かに、新規事業が生まれるチャンスでもあります。しかし、その道に備えてこそそのチャンスであり、無防備のところは棚ボタのよとの発想は、危険そのものといわざるをえません。

産業構造の変化に対応を

私自身、今20世紀と21世紀をまたいで生きていることは、歴史的立場で考えれば、まさに奇遇といえます。そして21世紀のスタートが、IT国家を目指してのスタートであるとするならば、現在の日本は、情報通信技術によって産業構造が変わりつつあると考えます。従ってその波に乗り遅れない心掛けが大切であるといえましょう。

ある会社で、息子がアメリカから帰国して社長を交代。アメリカでITを経験済みであり、まさに先端技術の導入で、ご本人は経営感覚も超一流と考えてのことかも知れません。インターネットビジネスと聞いて、メールのやり取りを行っているといえば、言葉の上ではまさに超一流的と思われるが、話を掘り下げると、ビジネスデスクの隣同士が口も利かず、社長をはじめ社員全員が同じフロアにいなから、メールでやり取りを行っているという。



何と情けない事よ！メールのやり取りが仕事とは。生産性はどうなっているのでしょうかと聞きたくなる。

こんな現象が、多くの会社で行われる可能性があります。本質をしっかりと把握してのルールづくりが必要です。コンピューターシステムで人間関係の距離感が分からなくなり、コミュニケーション欠如によって、人間不信感が助長されると考えるのは間違いでしょうか。

このような社会環境の中で、平成14年度から1級自動車整備士試験が実施されれば、我々も時代の変革に応じて、1級自動車整備士養成に対応することになるでしょう。それは非常に望ましいことであります。この事は、自動車整備士の地位向上にもつながり、整備士自身もまた、社会的ニーズに応えなくてはなりません。

教職員の意識改革が先決

厳しい経済環境の中で、自己啓発の目標が一段と自覚させられます。学校サイドでは、社会のニーズの内容が高度化されていると考えますと、より一

層の努力をもって技術レベルの向上はもちろん、一般教養を付加して社会に役立つ人間性の涵養に力を入れなければなりません。

社会性、人前で話せる発表能力、行動力、考えながら突っ走る人間性等々を考えますと、まず、教職員の意識改革が必要です。その上で、教育改革の一環としてとらえ、学生本人の能力をどれだけ引き出させるかを意識し、教養的教育をうまく担うシステムづくりが必要と考える一人です。

2級整備士を上積みした1級整備士養成課程において、大学卒と同等以上の力を身につけた人材育成を目標とした教育プログラムが形成されれば、当然「専門大学」を意識した実践教育の教育改革を、我々の手で一步一步、確実に押し進めることが出来るチャンスと心得ています。現実に統一模試はその一つの証ととらえています。専門学校の一つの特徴は、学生と同じ目線で、新鮮な感動を与えることができる教育にあると考えていますが、このような考えは間違っているのでしょうか。教職員全員に問いかけてみたいと思っています。

CONTENTS

- 2面 OPINION
- 3面 我が校自慢
- 4・5面 特集・学生カウンセリングの現場から
- 6面 協会トピックス
- 7面 活躍卒業生・地区通信
- 8面 私の教材活用・編集後記